

## 常呂川河川整備計画検討会（第4回）議事要旨

- 日時： 令和3年7月16日（金）13:30～16:00
- 場所： 北見芸術文化ホール 小練習室2（WEB参加を併用）
- 出席者： 渡邊委員長、根本副委員長、駒井委員、塩本委員、中川委員、早川委員、平野委員、吉田委員（以上8名）※委員長、副委員長以降の順は五十音順
- 議題： 常呂川水系河川整備計画〔変更〕原案

1. 河川整備計画の目標に関する事項
2. 河川整備の実施に関する事項

### ■議事要旨：

議事に入る前に委員長より欠席委員の以下の意見の伝達が行われた。

- ・掘削土の農地活用について、農地利用の効果検証が重要である（委員）。
- ・河川整備による産業の生産性向上についても分かり易く記載されるとよいのではないかと（委員）

### 1. 河川整備計画の目標に関する事項

- ・無加川の河床低下は、生物に対する影響も大きいと考えられる。上流からの砂礫供給減少が根本的な問題であるため、砂防ダムの改良など流域一体で取り組んで頂きたい。（委員）  
→ 引き続き、道区間とも協力して対応を進める。（事務局）
- ・水利権（水利使用量）の有効利用を検討していただきたい。（委員）
- ・将来の人口減少、高齢者増加、農業人口減少については、取水量には影響しないと考えているのか。（委員）  
→ 玉ねぎをメインとする生産性の高い地域であり、取水量は大きく変わらないものと考えている。（事務局）  
→ 水道取水は現在も少ないので人口減の影響は少ないのではないかと。（委員）
- ・洪水の概要で、人的被害、経済（農業、水産等）被害などを盛り込めないか。たまねぎは全国の30%を生産しており、道東の漁業は金額でいうと全国の5～10%を占めているなど、全国的に被害の影響が波及することが考えられる。（委員）
- ・今年5月に改正災害対策基本法が施行され、個別避難計画作成が努力義務となっているので、盛り込めないか。（委員）
- ・住民が常呂川とどう付き合いしてきたのか、もう少し踏み込んで書かれると良いのではないかと。（委員）

## 2. 河川整備の実施に関する事項

- ・整備計画の期間を2050年までの30年間とするとのことだが、目標設定の際、どのシナリオで考えているのか。(委員)  
→2050年時点では4つのシナリオとも2度上昇することは大きく変わらないことから、2度上昇のシナリオで検討している。(事務局)
- ・2度上昇というのは、30年後の2度上昇時の予測ということか。(委員)  
→2度上昇したときの諸条件を考慮した予測計算であり、2050年頃にそういった状況になることを想定したもの。(事務局)
- ・河川整備の目標について、一般市民にも分かりやすく示してもらいたい。2度上昇によって危険が増すということを理解してもらおう一助にもなると思う。(委員)
- ・水位情報等の提供のみならず、避難路の情報提供、要配慮者にも伝わりやすい情報提供、高齢者施設タイムラインの支援といった記載も検討願いたい。また、もし巡視にドローンが使用されているのであれば、記載してはどうか。(委員)
- ・危機管理型水位計の設置状況について、行政機関ごとではなく、まとめて情報提供してほしい。(委員)
- ・子供たちが常呂川に興味を持ち、防災意識につながり、常呂川を愛してもらえるよう、海や上流域も含めた常呂川流域一帯の読本を別途つくってはどうか。防災を考える際も、土地を知らないといけない。なお、実際の体験も重要なので、自然体験学習会の開催なども合わせて支援していただきたい。(委員)